

(概要版)

主体的に作品や素材とかわり見方や感じ方を深める鑑賞指導の工夫

— 図画工作科鑑賞支援資料「みるナビ」を取り入れた題材の開発を通して —

長期研修員 早矢仕 智陽

図画工作科は、児童に人気のある教科のひとつです。行為や感覚で形や色、イメージとかかわり、意味や価値を見付け出していく学びの形が、児童を引付けているのではないのでしょうか。しかし、内容のひとつである「鑑賞」には、いくつかの課題があります。

鑑賞支援資料「みるナビ」を取り入れた題材の概要

▲ 「みるナビ」(中学年用)

▲ 開発する題材の学習過程

第1学年の題材例 「てざわりハンター」

この題材の鑑賞の対象は、児童の身近にある素材です。身近にある素材の手ざわりに関心を持ち、積極的にふれたり感じの違いを見付けたりして、気に入った手ざわりを簡単な文やフロッターージュで表して、交流の場で紹介し合います。

ふれる

直感的な見方で鑑賞する

- まず、手ざわりを感じる活動への関心を高めます。
児童の使っているはさみを、フロッターージュにして、提示します。画用紙に、はさみが鮮明に写っている様子に、児童はとても驚きます。
児童は、自分たちでフロッターージュを試して、もう一度驚きます。



はさみのフロッターージュ

たしかめる

観察的な見方で鑑賞する

- 次は、身近な素材とじっくりかかわる活動です。
「みるナビ」のサンプルをさわって、いろいろな手ざわりがあることが分かります。
そして、教室に用意された素材から、お気に入りの手ざわりを探してフロッターージュします。
児童は、素材のもつ手ざわりへ興味が高まり、いろいろな感じ方を見付け出します。

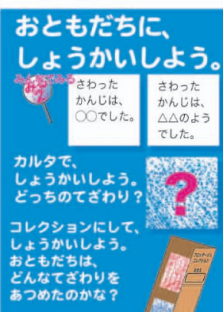


みるナビの部分

ふかめる

交流を通して自分とは違った見方で鑑賞する

- 最後は、他の児童と交流して、いろいろな感じ方があることに気付く活動です。
「みるナビ」を見て、交流の仕方が分かります。
そして、感じた手ざわりをメモしたカードとフロッターージュを、カルタやコレクションにして遊びます。
児童は、互いの作品を見合って「すごい！」と歓声をあげます。



みるナビの部分



第5学年の題材例「アート・レポーターになろう」

この題材の鑑賞の対象は、日本や諸外国の美術作品です。日本や諸外国の美術作品に関心を持ち、表現されているものから想像したことなどを、アート・レポーターの役割になって紹介したり、感じたことや考えたことを交流の場で話し合ったりして、よさや美しさを感じ取ります。



ふれる

直感的な見方で鑑賞する

- まず、美術作品を紹介する、アート・レポーターの役割への関心を高めます。
鑑賞のウォーミングアップとして、アートカードでゲームやクイズを楽しみます。
児童は、題名や作品の共通点を考えたり、画面のなかで起きていることを想像したりしながら、活発に鑑賞を楽しみます。



アートクイズ

たしかめる

観察的な見方で鑑賞する

- 次は、美術作品とじっくりかかわる活動です。
「みるナビ」で、鑑賞の観点をつかみます。最初は全員で一枚の絵を鑑賞し、何を感じたか話合います。そして、いよいよ自分が担当する作品を鑑賞します。
児童は、メモを取りアート・レポーターの準備をしながら、気付かなかった特徴を見つけ出します。



みるナビの部分

ふかめる

交流を通して 自分とは違った見方で鑑賞する

- 最後は、他の児童と交流して、いろいろな見方や感じ方があることに気付く活動です。
「みるナビ」を見て、交流の仕方をつかみます。
アート・レポーターは緊張して紹介します。観客は、質問をします。場合によって、即興的な回答が必要です。意外な回答や新たな考えに笑ったり感心したりします。



みるナビの部分

鑑賞支援資料「みるナビ」を取り入れた題材の成果と課題



▲「みるナビ」(低学年用)

○ お気に入りの手ざわりが、見付かった

低学年の児童は、感触を楽しむ活動が大好きです。「みるナビ」で、手ざわりの様子や他の素材との違い、さわる楽しさを確かめることができました。このため、素材を鑑賞する場面では、進んで鑑賞の対象とかかわり、自分の気に入った手ざわりを見付けることができました。授業後のアンケートは、100%の児童が「楽しく鑑賞できた」と答えています。

○ いろいろな感じ方に気付けた

低学年児童の交流は、遊びを通して行うことも効果的です。「みるナビ」で、カルタやコレクションなど二つの交流の仕方が、ひと目で理解できました。授業後のアンケートは、72%の児童が、自分とは違う友だちの感じ方に気付くことが「できた」、24%の児童が「まあまあできた」と答えています。さらに主体的な交流を促せるように、今後は児童の感覚に働きかける資料も充実させていきます。

○ 作品に表されているものを見付けたり、想像したりできた

高学年児童は、観察的に見たり、読み取ったりすることが得意になります。「みるナビ」で、作品のもつ形や色の特徴を見付けることや、想像を働かせることができました。このため、美術作品を鑑賞する場面では、進んで鑑賞の対象とかかわり、感じたことを文章にして表すことができました。授業後のアンケートは、71%の児童が「みるナビ」が鑑賞の参考に「なった」、27%の児童が「まあまあなった」と答えています。

さらに作品の特徴を幅広くとらえることができるように、今後は「謎解き」や「クイズ」などの欄も設けていきます。

○ いろいろな見方や感じ方に気付けた

高学年児童の交流は、思考を働かせる活動も効果的です。「みるナビ」のマンガで、レポーター役と観客役の思考の働きが理解できました。授業後のアンケートは、77%の児童が、自分とは違う見方や感じ方に気付くことが「できた」、23%の児童が「まあまあできた」と答えています。



▲「みるナビ」(高学年用)

題材の実践を通して、児童が鑑賞の対象への関心や題材への意欲を高め、主体的な態度で美術作品や身近な素材とかかわる姿を見ることができました。段階的な学習過程に「みるナビ」を投入することで、児童が見方や感じ方を深める鑑賞指導を進めることができました。

問い合わせ先

群馬県総合教育センター
担当係：義務教育研究係

0270-26-9213 (直通)